

町民の声が届く まちづくりの確立を目指して 地域懇談会開催

5月23日から始まった地域懇談会が394人の参加を得て全行政区で終了しました。

今回の懇談会では、重点事業と社会教育施設の整備方針について、地域の皆さんとの対話を通して、今後のまちづくりに向けた活発な意見交換が行われました。

今回いただいた貴重な意見や要望を踏まえながら、今後のまちづくりに生かし、チーム平泉が一丸となり活気あふれるまちとなるような町政運営に取り組んでいきます。今月号では先月号に引き続き、各行政区から寄せられた主な質問、意見について紹介します。

寄せられた 主な質問、意見など

Q 道の駅の先進地のノウハウを生産者にフィードバックする努力はしているのか。

A 農林振興課で進めている。他の地域では、水稲だけでなく他の農産物の生産にも力を入れおり、その結果として売

る場所が必要となり、道の駅の建設にもつながった。平泉では生産者が「道の駅に出せば売れる」という気持ちを持つことで農産物の生産拡大につながっていくはずである。

Q 農産物を増やすには生産者の意識改革が必要だが、農林振興課などの組織が率先して行う考えは。

A 栽培講習会を開催している。新規作物の苗代、肥料代について3万円を上限に補助している。生産者には少量多品

種で道の駅に出荷していただきたい。また、道の駅の運営会社と協議して、代表者がまとめて出荷できる仕組みを検討している。観光客や消費者は地元の商品を求めているのでニーズに応えられるよう働きかけをしている。

Q 野菜、花き、果物など、道の駅で販売する特産品の開発について、町を挙げ一大プロジェクトとして取り組んでもらいたい。

A 町内には現在、農作物の安定供給を目指し試験的にハウス栽培に取り組む複数の農業者がいる。農業参入を希望する都市部の若者が増える中、地域の農業者や住民との交流で人口を増やす取り組みを進め、歴史、食文化、農業など地域資源を有機的に結びつけ、総合的に地域産業として発展させていきたい。

Q 町内の野菜作りの現状は、主に女性が小さな菜園で自家消費分だけ作っている状況なので、品質は関係なく作っている。農産物を増やす方法として、野菜のハウス団地を作ったらどうか。

A 生産力確保のため、今後支援事業があればハウスを建てて、団塊の世代以上の人たちでいるいろいろな種類の野菜をみんなで作っていきながら作ることも良いと思っている。地元だけでなく都会、若者にも目を向けて農業参入を考えていき、地元の人と他から来ていただける人とタッグを組み生産力を高め、道の駅やスマーティンター周辺で観光農園など新たな取り組みを進めたいと思っている。

Q 世界文化遺産、照井堰かんがい遺産、世界農業遺産と3つの遺産があれば素晴らしいが、維持管理の費用は大変なのか。農業遺産はその候補地となり得る場所なのか。

A 世界文化遺産登録から6年となるが、以前から維持管理費用は発生しており登録前後でそれほど費用は変わっていない。住民の皆さんの意識も高まり環境整備に協力いただき町がきれいになったと思う。農業遺産はこれまで伝えてきた農村文化を将来にわたって引き継いでいくことが目的である。地方を元気にする事業が増えており、それらを活用して持続可能な地域をつくらせていきたい。

Q 西行桜の森は皆さんが手入れして良くなっているが、前沢方面に延びる道路が荒れている。きれいに整備してもらうともっと良くなる。

A 年1回、道路の両脇は刈り払いしている。世界農業遺産の取り組みや西行桜の森など、眺望できる場所の検討などを考えていきたい。

Q 図書館・公民館は、町中心部の計画でコンパクトシティの傾向だと思ふ。町内の均衡ある発展を目指すために、逆に

中心部から外して公共施設を持つていけば、その周辺が栄えるということもある。

A 公共施設の整備方針については、昨年の懇談会で利用者からの要望として出てきたものである。図書館はコミュニケーションの場ともなっており、中心部がいいとの声が多い。体育館については、車利用が多く町内全域を対象にという意見をいただいた。利便性を考えて検討する。

Q 公共施設の優先順位はこのとおりだと思う。ぜひ町民全体で利用されるような公民館をつくらしてほしい。図書館併設だとコストもかかるが良く

A 図書館、公民館は古くなり利用に支障がでてきているため整備の優先順位を決めたところである。地域懇談会の中で身の丈に合う施設をというご意見があり、一関市のような規模の施設にはできないが平泉らしい施設となるようにしたい。図書館は本を借りるだけの場所ではなく、憩いの場(サロンのような使用もできる)発想が必要である。

Q 平泉町・一関市の放射能廃棄物の最終処分場について、一関広域行政組合の中に平泉

町として加わっているの、その経過についても教えてほしい。

A 放射性廃棄物の最終処分場については、一関市で開催されるさまざまな会議や懇談会に町でも出席している。狐禅寺以外の場所も検討するなど、まだ管理者が処理場の方向性を出していない状況であり、方向性が決まったら町民に対しても説明していきたい。

Q 町税の納付に関し、年金の引き落としだけでなく現金で納付しなければならぬときがあるが、改善できないか。

A 税の徴収方法については、年金特別徴収としての仮徴収後に過不足が生じた場合、現金払い(納付書払い)の取り扱

替えが便利なので利用を検討願いたい。

Q 「浄土の館」の指定管理者は、宿泊収入だけでやっていくのか心配である。

A 指定管理者は経営者2人で運営しており、普通の宿泊業務だけでなく能や謡などの体験メニューも企画している。さまざまな形で町民にもぜひ利用してほしいと考えている。今後は食事なども提供する予定であり、何とか利用者を増やして経営を成り立たせたいと思う。

Q クマの目撃情報が相次いでいるので目で確認できるように出沒マップを学校に掲示してほしい。

A クマ、イノシシの出沒は近年増えている。平泉は小さな町なので出沒するところが限られていて、農林振興課にマップを配置しており、防災無線のほか学校には直接情報提供している。

Q 無量光院跡の整備は平成32年度で完成というが、水はずっと張っていくのか。

A 今年は11月まで水を張る予定である。水深が浅く、夏は藻が発生しないか調査している。できれば年中水を張れるよう研究を進めている。

Q 町では商店街に対してどのような対策を講じているか。

A 今後中尊寺通りも完成し、道路はきれいになる。しかし、店舗については後継者不足がある。空き店舗の貸し出しのアンケート調査をした際に、ほとんどの人が「貸さない」という意向だった。町では空き店舗を改修して店舗を開く場合の補助制度を設けている。

Q 本年度創設した店舗リフォームは何件あるのか。住宅リフォームの補助について、新たな考えは。

A 店舗リフォーム補助金は、店舗に係る洋式トイレ、改装など50万円を上限に工事費の半額を補助する制度であるが、現在は1件決定のほか2件の相談を受けている。商店は世代交代の関係もあり、この補助金がきっかけとなり商店の継続、町の活性化に結びつけばと思っている。

住宅のリフォーム補助金は、国の補助制度も終了し、町への申し込み件数も減少したことから終了した。何か関連する事業があれば検討する。

Q 旧長島保育所を解体後は公園を整備してほしい。

A 子育て世代から要望が多い。他地区に親子で史跡にふれなが

ら子育てできる環境を作るなど、施設を活用した平泉らしい史跡公園を検討している。

Q 魅力あるまちづくりで若い人が住みたい、子育てしたいと思える町にしてほしい。

A 平泉の人口は減っているが、世帯数はかなり増えている。遊休地を活用した宅地分譲などで若い世帯を増やしていきたい。

Q 全国的な問題として人口が減って過疎化が進んでいるが、田舎で暮らしたいという家族の受け入れ体制として空き家を利用したり、期限を設けて補助を出すなど、過疎化対策をしてみてもどうか。

A 町内に空き家は1500件程度あるが、貸してもいいという所はほとんどない。使えない、壊さなければならぬという家もある。なかなか空き家の利用が進まない状況である。遊休地などはできるだけ処分して、受け入れていきたいと考えている。片付けに対して助成をするなど、施策として何かできないか考えている。平泉は発掘があるからと他の市町村へ行っている人がいる一方、史跡のある町に住んでみたいと言っている人も

